

# PEACE GOURD



9条の会・養老  
会報、第21号  
2019年11月15日  
(部内資料)

”ピース・ガード” 「平和の瓢箪」

日本国憲法公布73周年記念

## 「2019 ぎふ平和の集い」から レポート

世話人 問山 尚義

去る11月3日、前回の会報でも案内させていただきました「2019 ぎふ平和の集い」が開催され、岐阜市民会館まで行って来ました。

全体が3部構成で、第1部が児童文学者那須正幹さんの記念講演  
第2部が、劇団風の子による朗読劇「茶色の朝」、第3部が、シンガーソングライター増田康記さんによるコンサートでした。

尚、舞台は写真撮影原則禁止のため、写真は同実行委員会から配信されたものを使用しました。参加は700名（主催者発表）でした。



那須さん

増田さん



カチャーシーを踊りながら

## 「文化の力が必要なんです。」に共感

### ●第1部、那須さんの講演から

那須さんは3歳のときに広島で被爆されていますが、被爆の後にみかんの缶詰を配っている人に出会い、その人からもらった缶詰が熱いまま、まるでおでんでも食べるようにみかんを食べた事を未だに覚えていると語っていました。

また、「原爆の子」の像のモデルとなった佐々木禎子さんとは1つ違いで同じ小学校に通っていたこと、在学中はそのことを知らずに後で知ったことなど。そんな事があって、自分の仕事はヒロシマから逃れることは出来ないと悟ったことなどを語られました。

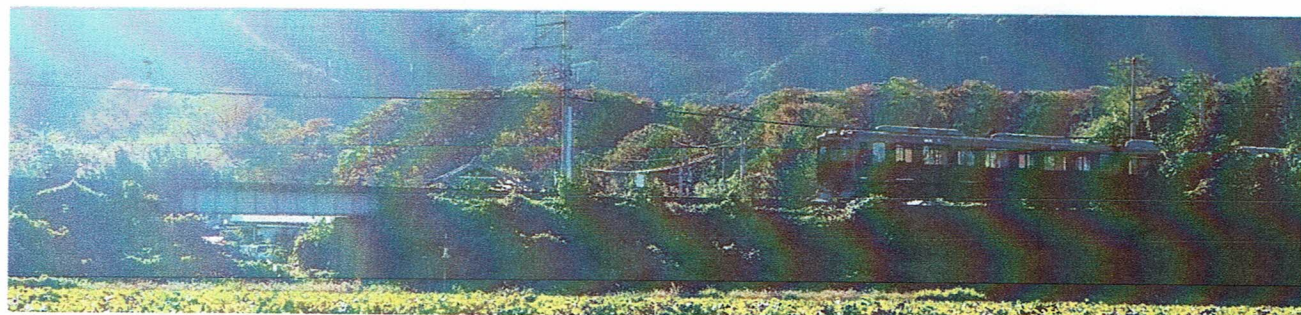
最後に那須さんが「記憶を記録にすることが大事」「言葉で語りきれないことは文化の力が必要。」と言われたことには、私の問題意識に共鳴する部分がありました。

### ●第2部、朗読劇「茶色の朝」から

さすがに日常的に演劇活動をされている劇団員による演技で素人っぽさがありません。準備時間の関係でフルの演劇ではなく朗読劇という形になったんだろうと思います。ただ「茶色」は、ナチスのシンボルカラーであることを事前に説明されても良かったのかなと思いました。

### ●第3部、増田康記さんのコンサートから

増田さんは知る人ぞ知る、岐阜県が生んだフィールドフォークのレジェンド、笠木透氏（故人）と共に活動されていた方で、「彰元さんの集い」でも毎年唄いに来てくれる方です。会場も一緒になって「わたしの子供たちへ」など計4曲を歌いました。増田さんも、歌の文化には語る言葉にはない力がある旨を言っておられ、共感するなあと感じた次第です。



♪ ♪ 戦後は続くよ どこまでも ♪ ♪